

慶應医学部で10数年間神経解剖を教えておりました。定年後、鹿島先生からお声を掛けていただき精神科に入局、「脳と精神」* を再考しながら、患者さん相手に過ごしてきました。

私の精神科医としてのスタートは1961年で、ウインタミン、トフラニール、アレビアチンを用いはじめた薬物療法の時代でした。人並みに精神病理の本を積ん読しました。鑑定医（現指定医）の資格も取り、診療にも携わってきました。

慶應精神科入局以来、鹿島先生からパブロフ/ルリアの条件反射と神経心理学、前田先生から Sense of Agency の脳基盤、自他意識、自我障害を学びながら、そして、坂本医院の臺弘先生からは外来診察指導、瞬間意識仮説（瞬間色覚テスト）、症状論と機能論の統合（障害は動的な「機能」概念で、症状は静的な「現象」概念である。構成の成り立ちが異なる）、生活療法、日常診療のための簡易精神機能テストなど、ご指導とご交誼を得て、高齢医師ですが頭を柔らかく働かせようと努めてきました。

私の現在の最大の関心事は、統合失調症の治療・回復で、多様な症状の成立と自我障害の機能異常を脳の構造・機能と結びつけて考察することです。患者さんたちの社会復帰を望んで、その道筋に至る、自分なりの仮説を構築したいのです。

今まで、脳内神経回路を主な研究分野としてきましたので、精神医学で最近進んでいる“Brain imaging technic”にも関心をもって、これからも「形態と機能の統合/関連」を考えながら、作業療法と結びつけて、心身障害者が自立できるための有用な方向性を掴みたいと念じています。思いつくままに記しますと、

Default mode network, Dorsal attention network, Central executive network, Working memory network, Saliency network, Mirror neuron system dysfunction, Social network system, Parallel loop of Cx-Bg-Th, Parallel neural networks of these systems composed of various kinds of association fiber bundles (機能的に異なる性質をもった諸ネットワーク間の競合と協調と障害), Circuits concerning Self and Non-self, Correlations among cognition, emotion, and active motor intention, Functional connectivity, Corollary discharge and feed forward systems of thought, 扁桃体、視床下部、連合野が関連する Limbic system の情動制御の障害、Cerebral-cerebellum related loops,

これらの情動、認知、表象、運動を包括するテーマに関心をお持ちの仲間と一緒に、雑談

と自由な話し合いを楽しみたいです。お声をかけて老輩を元気づけてください。自家用の図版を数枚付しました。お気軽にご連絡ください。

E-mail: kokikawamurag@gmail.com

HP: <http://www.actioforma.net/kokikawa/>

*拙著 「脳と精神 ―生命の響き―」(慶應義塾大学出版会から刊行、2006年)に同類の図の何枚かを載せてあります。

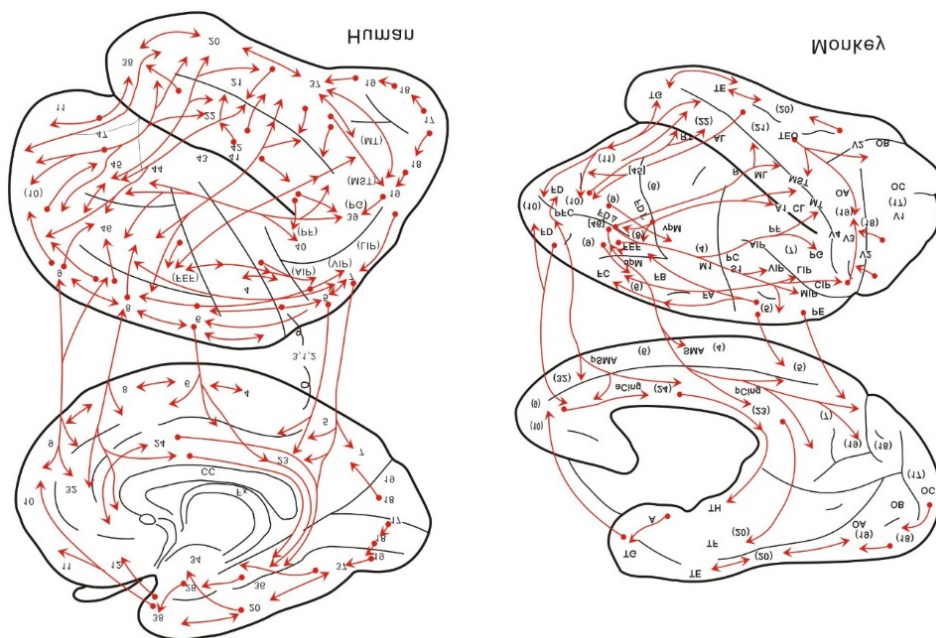


Fig. 1 Association fibers in man and monkey. Summarized data of anatomical experiments, using methods of Nauta, Fink and Heimer, HRP, etc.

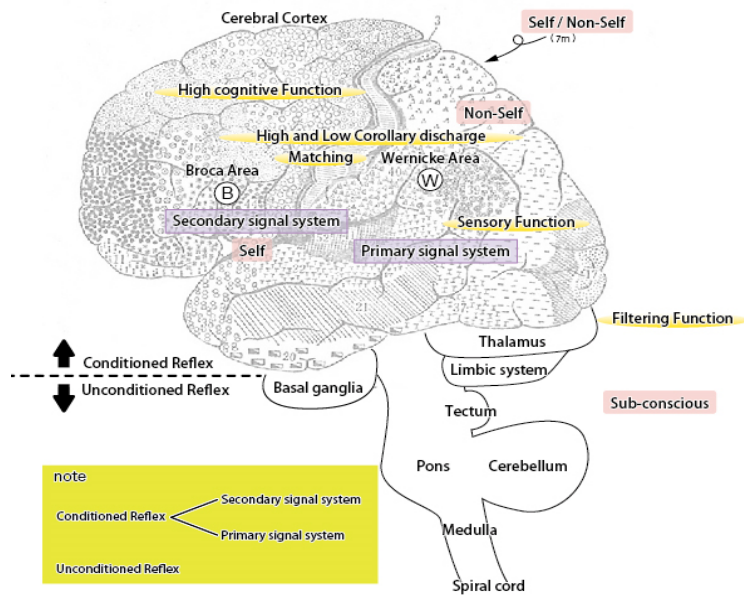


Fig. 4 Conditioned reflex, Consciousness, Self and Non-self

川村 写真

